

世代を超えた
友情の物語 ♡



映画「エレノアってグレート。」をより深く理解するために

— ホロコースト、ユダヤ教の伝統と文化、そして「ヤコブとエサウの物語」 —



この3つの背景を知ると、
映画のテーマや登場人物の
心情がより深く伝わってきます。

1 ホロコーストとは？



第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによって行われたユダヤ人に対する迫害・大量虐殺のこと。



約600万人のユダヤ人が犠牲に

1939～1945年の間に、ヨーロッパを中心に約600万人（当時のヨーロッパのユダヤ人の3分の2）が命を奪われました。

強制収容所・ゲットー（隔離地区）

多くのユダヤ人が住む場所を追われ、隔離され、過酷な労働や飢え、非人道的な扱いを受けました。



生き延びた人々のその後

生き延びた人々は、家族や故郷を失い、心に深い傷（トラウマ）を抱えたまま、新しい国や土地で新しい人生を歩み始めました。



映画の中のベッシーは、ホロコースト生存者としての記憶を語ります。演じたリタ・ゾーバー自身も実際のホロコースト生存者です。

他にも、実際のサバイバーが出演しています。

2 ユダヤ教の伝統と文化（ラビとは？）



ユダヤ教は、約3,500年前に中東で生まれた世界最古の一神教。ユダヤ人の生活や価値観の中心となってきた「伝統」と「知恵」があります。

ユダヤ教の大切な要素



トーラー（律法）

神とユダヤ人の契約や教えが書かれた聖なる書物。



シンボルや行事

安息日（シャバット）や食のきまり、祝祭日など、日常生活の中に信仰が息づいています。



共同体（コミュニティ）

ユダヤ人は助け合い、学び合うコミュニティを大切にしてきました。（例：JCC=ユダヤ・コミュニティ・センター）



記憶を語り継ぐこと

過去の苦しみや歴史を忘れず、次の世代に伝えていくことをとても大切にします。



ラビ（Rabbi）とは？

ラビは、ユダヤ教の宗教指導者であり、学者であり、相談相手でもあります。

- ・トーラーや教えを学び、教える人
- ・コミュニティのリーダーとして導く人
- ・人々の悩みに寄り添い、助言する人

映画の中のラビは、エレノアに「ヤコブとエサウの物語」を語り、人間の複雑な心や選択について問いかけます。

ラビの存在は、ユダヤ人にとっての「信仰の支え」であり、「人生の道しるべ」となる大切な役割を持っています。



3 ヤコブとエサウの物語とは？



旧約聖書「創世記」に登場する、双子の兄弟の物語。ラビがエレノアに語った、深い意味を持つお話です。

双子の兄弟



エサウ（兄）

狩りが得意で、行動的なタイプ。



ヤコブ（弟）

家で過ごすのが好きな穏やかなタイプ。

ヤコブが父をだます



弟ヤコブは、兄エサウから長子の権利と祝福をだまし取ります。

しかし…

- ・ヤコブは家族の中で人間関係を壊してしまう。
- ・逃げるように家を出て、長い旅の中で多くの経験をする。
- ・神や人との向き合いを通して、成長していく。



ラビの問いかけ

ヤコブは悪人だったのでしょうか？ それとも、弱く、未熟で、それでももがきながら成長した人間だったのでしょうか？



人は単純に「善人」か「悪人」では語れない。誰の中にも、光と影がある。

この物語は、エレノアの生き方と重なります。

間違いや嘘をついてしまうことがあっても、人は変わり、新しい道を歩むことができる——そんな希望を教えてください。



この映画が
伝えたいこと



過去にどんな悲しみや傷を抱えていても、人はつながり、支え合い、新しい人生を紡いでいける。



エレノアとニナの友情は、世代や経験を超えて、人生に新しい意味と光をもたらしてくれます。